

1. 特定本邦航空運送事業者（※）に関する航空輸送サービスに係る情報公開（令和2年4月～令和2年6月）のポイント

※特定本邦事業者

- 日本航空：JAL（日本航空、ｼﾞｪｲｱｰ、北海道Iｱｼｽﾃﾑ）
- 全日本空輸：ANA（全日本空輸、ANAｲﾝｸﾞｽ）
- 日本ﾄﾗﾝｽｵｰｼﾞｬﾝ航空：JTA
- ｽｶｲﾏｰｸ：SKY
- AIRDO：ADO
- ﾗｲﾝﾄﾞｪｱ：SNJ
- ｽﾀｰﾌﾗｲﾔｰ：SFJ
- Peach Aviation：APJ
- ｼﾞｪｯﾄｽﾀｰ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ：JJP
- ﾊﾞﾆﾗ･ｴｱ：VNL
- 春秋航空日本：SJO
- Iｱｱｼﾞｱ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ：WAJ

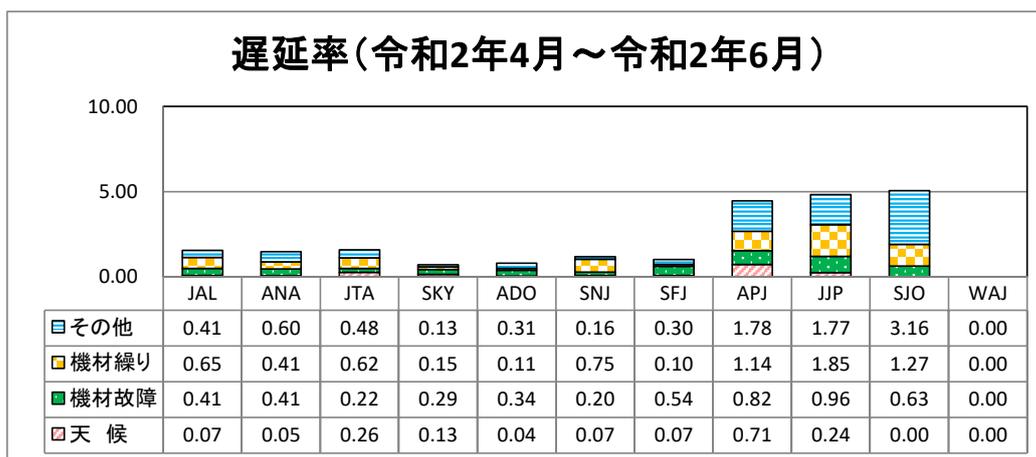
※バニラ・エアは令和元年9月をもって運航を終了。

1. 輸送サービスの比較等に関する情報

(1) 遅延率（令和2年4月～令和2年6月）

当期実績	前年度同期実績	前年度同期との比較
1.59%	10.72%	9.13ポイント減少

※「遅延便」とは、出発予定時刻より15分を超えて出発した便をいう。



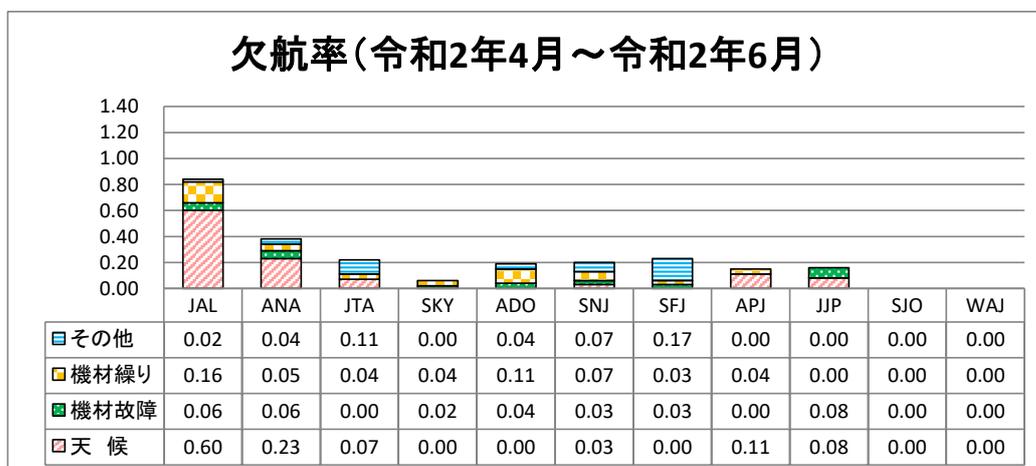
※対象となっている路線が各航空会社によって異なっており、路線毎・季節毎に欠航・遅延の特性が異なることから、単純な比較には適さない。（夏期は沖縄路線等で台風の影響を受けやすく、冬季は北国等で積雪の影響を受けやすいなど。）

※複数の要因がある場合、もっとも影響の大きい事由に含む。

※機材繰りとは、前便が何らかの理由で遅延運航になり引き続く次便が遅延運航となる場合をいう。

(2) 欠航率（令和2年4月～令和2年6月）

当期実績	前年度同期実績	前年度同期との比較
0.48%	0.51%	0.03ポイント減少



※対象となっている路線が各航空会社によって異なっており、路線毎・季節毎に欠航・遅延の特性が異なることから、単純な比較には適さない。（夏期は沖縄路線等で台風の影響を受けやすく、冬季は北国等で積雪の影響を受けやすいなど。）

※複数の要因がある場合、もっとも影響の大きい事由に含む。

※機材繰りとは、前便が何らかの理由で遅延運航・欠航になり引き続く次便が欠航となる場合をいう。

2. 運賃関連情報

(1) 輸送実績（令和2年4月～令和2年6月）

項目	当期実績	前年度同期実績	前年度同期との比較
平均搭乗区間距離	945km	934km	1.14%増
輸送人員	317万0156人	2508万1873人	87.36%減
輸送人キロ	299億4421万人km	2342億4412万人km	87.22%減
旅客収入	473億30百万円	3422億58百万円	86.17%減
輸送人員あたり 旅客収入	14.9千円	13.6千円	9.41%増
輸送人キロあたり 旅客収入	15.8円	14.6円	8.18%増

(2) 路線別データ（令和2年4月～令和2年6月）

①旅客数

上位5路線は次のとおり。

	当期実績	前年度同期実績
1位 東京＝福岡	32万8889人	(211万6497人)
2位 東京＝那覇	28万3030人	(138万1715人)
3位 東京＝札幌	27万7806人	(226万4703人)
4位 東京＝大阪	23万0870人	(137万7571人)
5位 福岡＝那覇	8万0212人	(45万4013人)
全路線	304万9158人	(2466万0989人)

②利用率

上位5路線は次のとおり。

1位 成田＝札幌	48.8% (78.4%)
2位 下地島＝成田	48.7% (84.8%)
3位 成田＝福岡	46.6% (81.8%)
4位 熊本＝成田	45.3% (85.4%)
5位 下地島＝関西	42.4% (-)
全路線	30.3% (71.4%)

下位5路線は次のとおり。

1位 成田＝新潟	3.2% (62.2%)
2位 成田＝仙台	3.5% (71.6%)
3位 大阪＝隠岐	5.8% (61.6%)
4位 福岡＝小松	6.6% (56.8%)
4位 新潟＝那覇	6.8% (60.8%)
全路線	30.3% (71.4%)

3. フレックストラベラー制度（※）に関する情報

令和2年4月～令和2年6月における、フレックストラベラー制度を有する航空会社の全輸送人員に対する不足する座席はなかった。

（※）オーバーセールス（提供座席数を上回る予約客を受け付けること）の発生が判明した時点で、自主的に搭乗を取りやめる旅客を航空会社が幅広く募集する。

※今回の公開項目の詳細、及び過去の公開資料につきましては、国土交通省のホームページ上にてご確認頂けます。

(URL)http://www.mlit.go.jp/koku/15_bf_000727.html